

『MG ゼータガンダム Ver.Ka
完全読本』
モデルグラフィックス編
大日本絵画

Model Graphix



Model Graphix

ガンダム アーカイヴス

MG ゼータガンダム Ver.Ka 完全読本

月刊モデルグラフィックス編

大日本絵画

ガンダム アーカイヴス

MG ゼータガンダム Ver.Ka完全読本

月刊モデルグラフィックス編

'85年に創刊した模型専門雑誌『月刊モデルグラフィックス』には創刊当初より数々のガンブラ作例やスクラッチビルド作例が掲載され続けてきており、本シリーズはそこからピックアップした記事を再編集のうえまとめたアーカイヴ本です。本巻では、MG ゼータガンダム Ver.Kaを、詳細なキット解説と様々な切り口で製作した作例の両面から紹介。MG ゼータガンダム Ver.Kaの魅力を探り下げていきます。なお、本書内でのガンダム世界考証は模型を楽しむための独自のものです。公式設定を下敷きにしていますが、公式設定ではないことをお断りさせていただきます。



*本書では基本的に雑誌掲載当時の記事表記に準拠するようにしています。そのため、「本誌」=『月刊モデルグラフィックス』、「MG」=マスターグレード、「PG」=パーフェクトグレード、「センテネル」=ガンダムセンテネルの略となっています。また、記事にあるマテリアルやキットに関する表記は雑誌掲載当時のままとなっているため、現在は販売が停止されていたり名称が変更になっていたり価格が改訂されていたりする場合があります。また、プレミアムバンダイ販売アイテムは購入受けを終了している場合があります。悪しからずご了承ください。

Contents;

MG MSZ-006 ゼータガンダム Ver.Ka (BANDAI SPIRITS 1/100)	4	MG ゼータガンダム Ver.Ka (BANDAI SPIRITS 1/100) 製作/ken16w	52
思い返せば、そこは“空白地帯”。 /NAOKI	8	MG MSZ-006C1 ゼータプラスC1 (BANDAI SPIRITS 1/100) 製作/アーリーチョップ!	68
MG ゼータガンダム Ver.Ka (BANDAI SPIRITS 1/100) 製作/ぬっきー	12	MG ゼータガンダム (BANDAI SPIRITS 1/100) 製作/直井浩司	78
Zガンダム、原点にして新しい“変形”のカタチ /森慎二	24	ガンブラベディア オールザット Zガンダム	90
パチ組んで、見る! /森慎二	30	HGUC MSZ-006 ゼータガンダム (No.203) (BANDAI SPIRITS 1/144 HGUC) 製作/けーくる	104
Interview: いまだからこそそのアニメ版。最高峰の“難題”への挑戦記	28	HGUC RX-178 ガンダムMk-II (エウゴ仕様) (No.193) (BANDAI SPIRITS 1/144 HGUC) 製作/けーくる	110
MG ゼータガンダム Ver.Ka (BANDAI SPIRITS 1/100) 製作/ぬっきー	34		





1/100 MG ゼータガンダム Ver.Ka

●MG Ver.Kaシリーズの最新作として、「原点であるアニメ版ゼータガンダムの追求」をコンセプトとして製品化されるのがこのMG ゼータガンダム Ver.Ka。カトキハジメ氏とBANDAI SPIRITSの企画/設計陣による緻密なやりとりを経ることで、そのまま立体化するのは不可能と思われた、アニメ設定画のエッセンスを再現したモビルスーツ（MS）形態とウェーブ・ライダー（WR）形態の両立を見事に実現することとなった。

MG MSZ-006 ゼータガンダム Ver.Ka
BANDAI SPIRITS 1/100
インジェクションプラスチックキット
税込7150円
出典 / 『機動戦士Ζガンダム』

Ver.Ka

A detailed MG Zeta Gundam Ver.Ka model is shown in the background, with its beam rifle and other components visible. The model is primarily white with blue and yellow accents.

MG Zeta Gundam Ver.Ka 完全読本

いよいよ発売も間近となり期待が高まっているMG ゼータガンダム Ver.Ka。原点であるアニメ版のゼータガンダムをどのように追求しているのか、新旧のアイデアが巧みにミックスされ新機軸ギミックも投入されることとなった変形ギミックの詳細などなど気になるキット内容を、企画開発者インタビューや歴代ゼータガンダムのガンプラ解説も交えつつ、詳しく解説していきましょう。

Model Graphix
2023年5月号
掲載

●MS形態でのアニメ劇中っぽい動きがあるポージングと、アニメ設定画のくさび形フォルムを再現するWR形態を見事に両立した最新のゼータガンダムだ

1/100 MG ZETA GUNDAM

初代 1/100

▶初代1/100は1985年発売で、ガンプラではじめて変形するZガンダムだった。もちろんアニメ版を立体化したもので、いま見ると胸の幅などに違和感はあるが、ウェーブ・ライダーは見る角度によってはアニメ設定画にそっくり。MG ゼータガンダム Ver.Kaの開発では試作検討時にいろいろと参考にされている

1985

初代MG

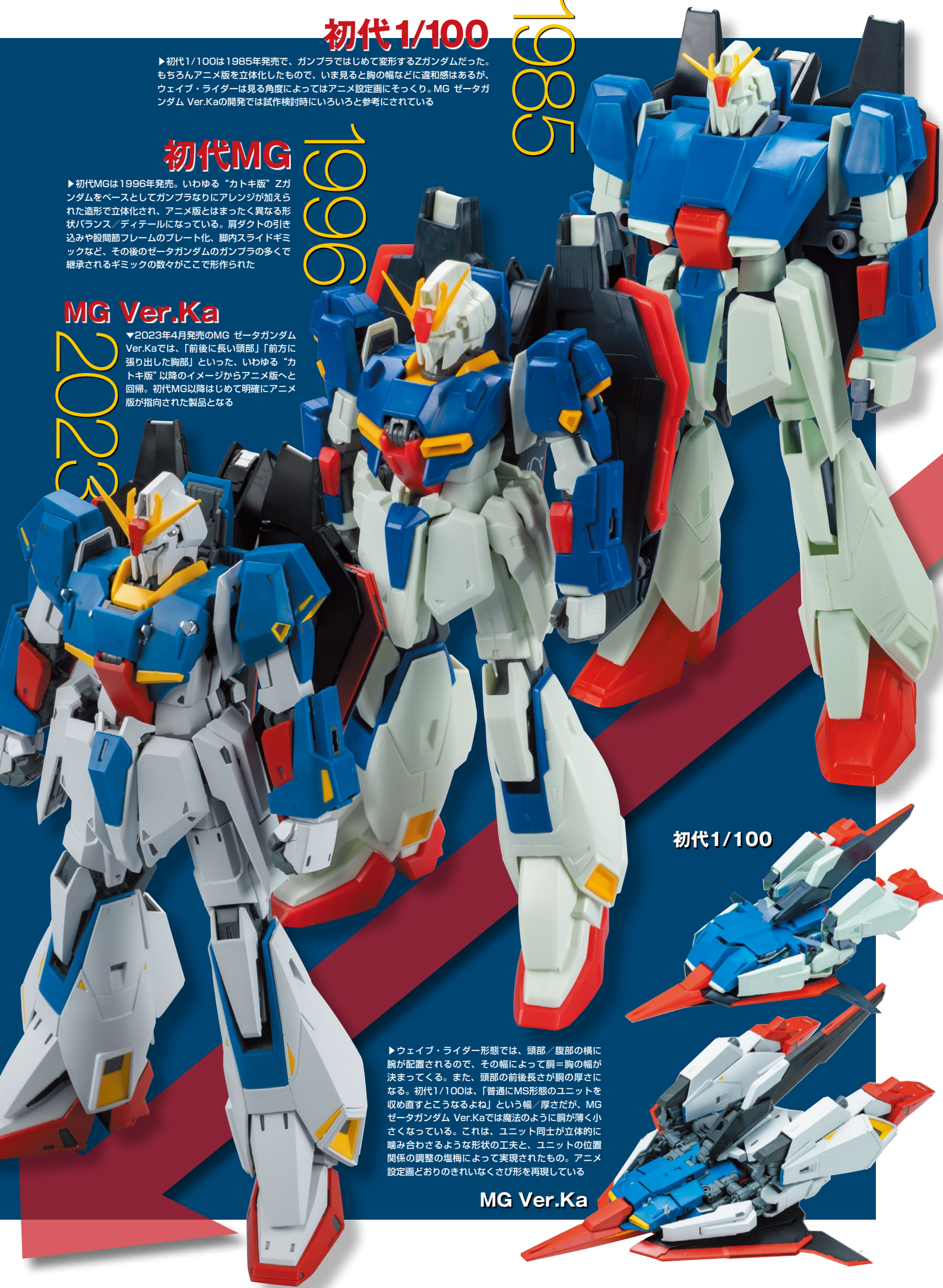
▶初代MGは1996年発売。いわゆる“カトキ版”Zガンダムをベースとしてガンプラなりにアレンジが加えられた造形で立体化され、アニメ版とはまったく異なる形状バランス/ディテールになっている。肩ダクトの引き込みや股関節フレームのプレート化、脚内スライドギミックなど、その後のゼータガンダムのガンプラの多くで継承されるギミックの数々がここで形作られた

1996

MG Ver.Ka

▼2023年4月発売のMG ゼータガンダム Ver.Kaでは、「前後に長い頭部」「前方に張り出した胸部」といった、いわゆる“カトキ版”以降のイメージからアニメ版へと回帰。初代MG以降はじめて明確にアニメ版が指向された製品となる

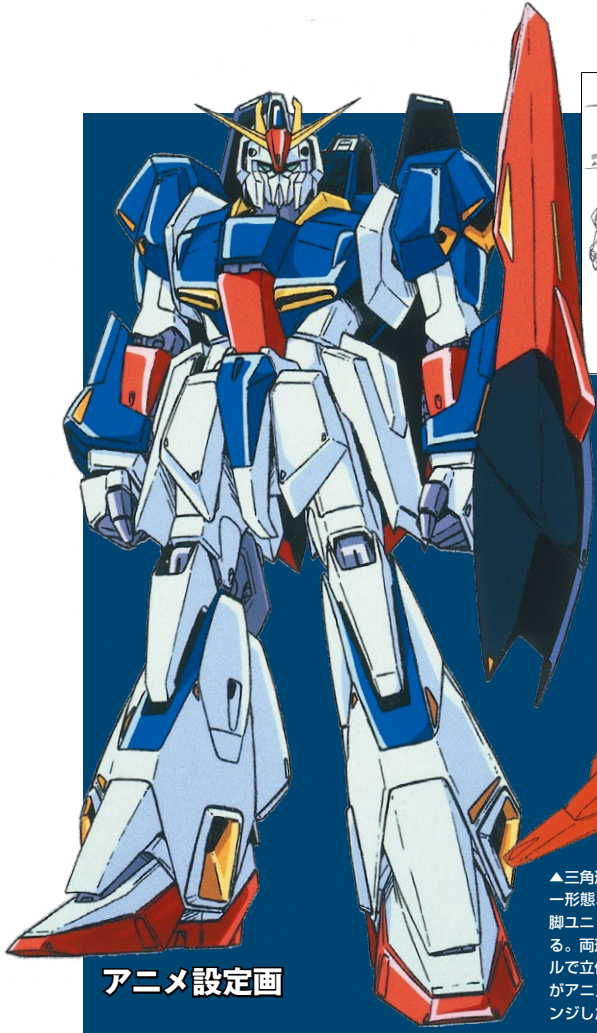
2023



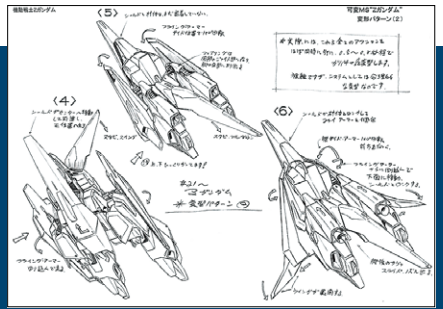
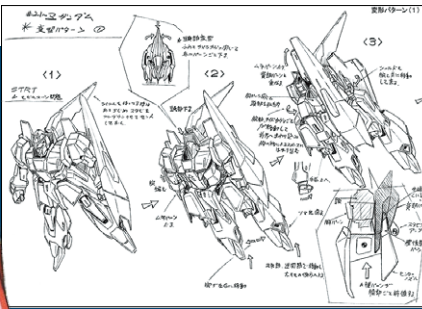
初代1/100

▶ウェーブ・ライダー形態では、頭部/腹部の横に腕が配置されるので、その幅によって胸=胸の幅が決まってくる。また、頭部の前後長さが胸の厚さになる。初代1/100は、「普通にMS形態のユニットを収め直すところなるよね」という幅/厚さだが、MG ゼータガンダム Ver.Kaでは魔法のように胸が薄く小さくなっている。これは、ユニット同士が立体的に噛み合わせるような形状の工夫と、ユニットの位置関係の調整の塩梅によって実現されたもの。アニメ設定画どおりのきれいなくさび形を再現している

MG Ver.Ka



アニメ設定画



▲アニメの変形パターン設定画。「複雑ですが、システムとしては合理的な変形」と記されていて、たしかにユニットが急になくなっていたりというようなことはないが、両形態のフォルムが立体で両立するかはまた別。MS形態のユニットをそのまま移動すると、胸が厚く大きくなり腕が収まらなくなる



▲三角形のくさび形フォルムが特徴のウェーブ・ライダー形態。とくに、胸の薄さや内部スペースの小ささや、脚ユニットの位置関係に注目すると再現の難しさがわかる。両形態の設定画を見比べると「これを可変モデルで立体化するのは無理なのでは」と思われる、それがアニメ版Zガンダムだ。そして、そこに果敢にチャレンジしたのがMG ゼータガンダム Ver.Kaである

MG ゼータガンダム Ver.Kaの製品化が発表されたとき、「アニメ版=原点を追求する」というコンセプトに「そうきたか!」とおもしろく思った。カトキハジメ氏が参加するMG Ver.Kaとなれば、いわゆる“カトキ版”、つまり「ガンダム・センチネル」画稿や初代HG画稿のデザインのゼータガンダムを想像したモデラーは多いはずだが、そもそもMG Ver.Kaはカトキ氏デザインのMSだけを立体化してきたわけではない。γガンダムやサザビーなどがそうであったように、デザイナーと企画設計陣が三位一体となることで、通常のMGシリーズを超えるような挑戦と提案をしようというものであり、そういう意味では、「アニメ版のゼータガンダム」は、MG Ver.Kaにこそふさわしい題材と言えるだろう。

アニメ版のZガンダムは数多あるMSのなかでもっとも立体化が難しいもののひとつだ。「カトキ版」だって難しいのでは?と思われるかもしれないが、アニメ版は段違いに立体化が難しい。ゼータガンダムの変形パターンは、'80年代リアルロボのなかでは比較的立体的整合性がとれているほうではあるが、ふたつの形態にはそれぞれ“絵の嘘”があってなかなか両立しない。そこで、そうしたアニメロボ的なあいまいさを廃し、立体的整合性とリアリティーをもってリデザインされたのが「ガンダム

アニメ版ゼータガンダムを変形させて立体化するの、ガンプラの題材のなかでもっとも難しいかもしれない。

MG Ver.Kaだからこそそのチャレンジングな題材 変形するアニメ版ゼータガンダムへの挑戦

初代1/100から40年近い刻を経て、改めて立体化されたアニメ版準拠な変形モデルのZガンダム。いまあえて、いわゆる“カトキ版”ではなくアニメ版のゼータガンダムに挑戦するというのはどういうことなのか? まずはそのチャレンジの持つ意味について考えてみることにしましょう。



◀▶初代HGでウェーブ・シューター仕様となったことで設定画も新たに描かれ、また、カトキ氏によるゼータプラスの存在を前提とした画稿も掲載されて、ここからアニメ版ではないガンプラなりのZガンダムのアレンジが進んでいく。その後長いあいだ明確にアニメ版を目指したZガンダムのガンプラが製品化されることはなかった



初代HG

▶初代HGでは、1/144という大きさと当時の技術的制約により、変形は再現されたものの変形機構が簡略化されたウェーブ・シューター仕様になっている

ム・センチネル』の“カトキ版”Zガンダムやゼータプラスだった。だから、“カトキ版”ゼータプラスのほうが立体化しやすいのはある意味あたりまえで、アニメ版の再現はかなりチャレンジングな選択となる。

そして、ついにできあがったMG ゼータガンダム Ver.Kaを組み立てる機会を得たが、その変形ギミックとウェーブ・ライダー形態の形状には驚いた。設定画どおりのくさび形フォルムはもちろんのこと、MS時の頭部/胴体のボリュームをまったく感じさせない薄い胴体部形状、設定の記述どおり縮む腕、設定画のニュアンスを汲み取ったハの字状に位置するフライング・アーマーや上面が水平な足……もちろんいまのガンプラなり、あるいはカトキ氏ならではのアレンジが施されつつ、ポイントとなる箇所のエッセンスはまさにアニメ設定画のとおり! しかも構造が思いのほかサンプルで(あくまでゼータガンダムとしては)、非常にしっかりしている。こんなゼータガンダムのガンプラを組んだのははじめてだ。これまでの変形するゼータガンダムのガンプラは、大スケールであるPGを例外的に除くと変形に繊細な扱いを要することがあったが、これは違う。両形態でユニットがしっかり保持されるので何度も変形させてみたくなる。これはすごい。いや、もはやすごいを超えている。ガンプラは常に進化し続けるので、毎回驚かされ「すごい」と思われる。「すごい」があたりまえになってくるのだが、このMG ゼータガンダム Ver.Kaには単なる「すごい」を超えた開発陣の執念のようなものを感じさせられた。最高峰の難題への挑戦の成果、ぜひその手で体感してほしい。(文/森慎二) ■

森慎二(以下森) 今回、じつは作例として発売を受けていたと聞きましてけど……

NAOKI 間に合わなかった……のではなくて、意図的にギブアップしました。

森 あい、やっぱり。このキット、完成度が高すぎて模型誌作例を作るモデラーとしてはお手上げ、そういうことですよ。

NAOKI そう。手を入れていってはいみたんですけど、この程度ならやらなくていい、いやむしろやらないほうがいいんじゃないかって思わされた。

森 Zガンダムは変形キミックがあるから手を入れにくいというのもありました。

NAOKI それもなくていいんですけど、自分の場合基本的にプラモデルって完成後に動かして遊ばないので、正直変形キミックってあまりプライオリティーが高くて、固定にしてしまっても多いんですよ。

森 モデラーとしてはすごいわかります。塗って仕上げた場合、変形させると、まさ、どこか塗料が剥けますからね。

NAOKI アニメのメカなので、普通は変形前と変形後の両方の形態を完全に再現するのは無理がある。だから、どちらかの形態に振ってそれをカッコよくしてもらえば満足なんです。で、もうひとつの形態のほうに手を入れたりするわけですが、このMGゼータガンダム Ver.Kaは両立してらんですよ、見事に。

森 両方ともカッコいい。

NAOKI そう、だからそこはリスベクトしたい。そこですと……。

森 本当に手を入れるところがない、と。

NAOKI 模型誌作例では、「見世物」として何かしないと、芸を見せなければならぬんだけど、それができなかった。

森 中途半端に手を入れるとコンセプトや完成度が台なしになっちゃう、そういう意味があるキットですよ。普通に組んで楽しむなら文句なしの傑作、でもそれがゆえの雑誌作例モデラーキラーですね。

NAOKI なので、少し手を入れたところで深くギブアップさせてもらいました。今回特集に掲載されているほかの作例のような方法論もあつたんでしょうけれど、そ

あるべき作例に代えて——ベテランモデラー×2による、ちょっと深めの雑談

思い返せば、そこは“空白地帯”。

稀代の傑作キットとなったMGゼータガンダム Ver.Ka。本来ならまず製品のコンセプトを活かした作例を、となるのですが……結論から言うとムリでした。完成度が高すぎるがゆえに製品コンセプトを活かそうとするとメーカー完成見本と同じになってしまう！ 代わりと言ってはなんですが、そのいきさつからはじまるちょっと深めのZガンダムトーク、お読みください。

NAOKI
森慎二



初代HG以降で初めてアニメ設定版を指向したMGゼータガンダム Ver.Ka

▶上下に長い頭部、前面が垂れ下がった胸部など、アニメ設定画のデザインエッセンスを見事に立体として昇華させたMGゼータガンダム Ver.Ka。初代HG以降の長いあいだアニメ版を指向したZガンダムのガンプラは存在しなかったため、かなり画期的な事件であったといえるだろう。

れって別物を作るということですよ。それを否定するつもりは毛頭ないですけど、自分がやるべきことではないかな、って。アニメ版の意匠をきちんと盛り込んでカッコよく作り込みたかった。でも、それはすでに製品の段階で非常に高いクオリティーで実現されていたんですよ。

森 手を入れたものを見せてもらいました。たしかに、NAOKIさんの手を入れたポイントの意図はわかったんですけど、あれだとストリートに組むのとはほぼ変わらぬ。「NAOKI製作の作例です！」と言われても、「どこが？」ってなりますね(笑)。

NAOKI そうなんです。製品化にあたって決められた原点へのリスベクト、そして工夫や苦勞……それらをまとめて全部リスベクトして、そのまま作ったほうがいい。でもそれだと模型誌作例というよりは完成見本ですよ。もちろん完成見本が悪

40年近くを経てたどり着いたウェーブ・ライダーの最進化形

初代1/100から40年近い年月を経ることで目を見張る進化を遂げたウェーブ・ライダー形態。MGゼータガンダム Ver.Kaでは、まるで魔法のように小型化された胴体部、きちんと上下に重なるようになった脚部、きれいなくさび形のアウトラインなどがすべて実現されているのだ。

1985
初代1/100



2023
MG Ver.Ka



*本稿はあくまで編集部でのモデラー間の雑談であり、サンライズ、BANDAI SPIRITS、および本誌の公式な見解ではありません。あしからずご了承ください。



実際にNAOKI氏が作例を製作しようとして手を入れたのがこれ。フェイスはより設定画に近くなるよう上下幅をほんの少しだけつめ、胸部上面を少しなで肩になるように削り込み、黄色い襟部分の上上面に手を入れている。でもこれ、このまま塗ったらキットのストレート組みと見分けつかないよね……ということで、ギブアップ宣言を受けてお蔵入りとなった。NAOKI氏によると「ここまで作例として手を入れられないガンブラって、これまでになかったんじゃないかな」とのこと。

ここまで手を入れてみたけど、これならそのままのほうがよくない、ってね (NAOKI)

今回は少し手を入れたところで、潔く作例をギブアップさせてもらいました (NAOKI)

製品のすごさが名人芸の域に達していて、同じ方向では足せないですよ、もう (森)

森 いまとなつては変形するガンダムってあたりまえにありますけど、Zガンダムがはじめてでしたよね。

NAOKI 当時Zガンダムのガンブラも

森 振られて混乱したんでしょ。Zガンダムはそのままいけるんだけれど、Zガンダムで「アレ？」ってなった。

NAOKI 「これ、自分のなかでどついうふうな位置づけたいのじゃないか」というのがわからなくなりましたよね。中学生なりにカッコいいとは思ってんですけど、自分のなかで消化してそれを模型として形にすることができなかった。

森 ガンダム Mk-IIとかハイザックまで

NAOKI 「これ、自分のなかでどついうふうな位置づけたいのじゃないか」というのがわからなくなりましたよね。中学生なりにカッコいいとは思ってんですけど、自分のなかで消化してそれを模型として形にすることができなかった。

森 上の世代からそういう話は聞きますね。NAOKI 「機動戦士ガンダム」からアニメは見ましたが、自分がガンダムの模型に目覚めたのって、MSVなんです。

森 いわゆる「リアル」な感じですね。

NAOKI そう。そこからの流れで急に

森 変形するZガンダムが来たので……直逆に振られて混乱したんでしょ。

NAOKI たしか中学校入ったくらいで、普通に見てました。でも当時は、見ながら混乱してました。

森 僕らは当時小学生だったので、子供心に「話が難しいなあ」と思ってた。あまり見てなかったりしたんですけど……(苦笑)。

NAOKI 当時Zガンダムのガンブラも

森 今となつては押しも押されぬ人気MSですけど、我々みたいなアラフィフ世代で放送当時を知るベテランモデラーにとつては、Zガンダムって複雑なところがありますよね。ちなみに、NAOKIさんは『機動戦士Zガンダム』の地上波放送アニメはリアルタイムで見ました。

NAOKI もっろん見ました。

森 僕は当時小学生だったので、子供心に「話が難しいなあ」と思ってた。あまり見てなかったりしたんですけど……(苦笑)。

NAOKI たしか中学校入ったくらいで、普通に見てました。でも当時は、見ながら混乱してました。

森 今となつては押しも押されぬ人気MSですけど、我々みたいなアラフィフ世代で放送当時を知るベテランモデラーにとつては、Zガンダムって複雑なところがありますよね。ちなみに、NAOKIさんは『機動戦士Zガンダム』の地上波放送アニメはリアルタイムで見ました。

NAOKI もっろん見ました。

森 僕は当時小学生だったので、子供心に「話が難しいなあ」と思ってた。あまり見てなかったりしたんですけど……(苦笑)。

NAOKI たしか中学校入ったくらいで、普通に見てました。でも当時は、見ながら混乱してました。

森 今となつては押しも押されぬ人気MSですけど、我々みたいなアラフィフ世代で放送当時を知るベテランモデラーにとつては、Zガンダムって複雑なところがありますよね。ちなみに、NAOKIさんは『機動戦士Zガンダム』の地上波放送アニメはリアルタイムで見ました。

NAOKI もっろん見ました。

森 僕は当時小学生だったので、子供心に「話が難しいなあ」と思ってた。あまり見てなかったりしたんですけど……(苦笑)。

NAOKI たしか中学校入ったくらいで、普通に見てました。でも当時は、見ながら混乱してました。

森 今となつては押しも押されぬ人気MSですけど、我々みたいなアラフィフ世代で放送当時を知るベテランモデラーにとつては、Zガンダムって複雑なところがありますよね。ちなみに、NAOKIさんは『機動戦士Zガンダム』の地上波放送アニメはリアルタイムで見ました。

NAOKI もっろん見ました。

森 僕は当時小学生だったので、子供心に「話が難しいなあ」と思ってた。あまり見てなかったりしたんですけど……(苦笑)。

NAOKI たしか中学校入ったくらいで、普通に見てました。でも当時は、見ながら混乱してました。

プロポーションとギミックを両立するという積年の夢

厳密な意味でアニメ版のZガンダムのガンブラという、TVアニメが放送された'85年~'86年に発売された初代シリーズまで遡らないとならない。当時はまだポリキャップが採用されはじめていたころで、技術的には変形できるようにするのが精一杯。そのため、変形はできるがアニメ設定画とはMS形態のフォルムが異なる初代1/100と、MS形態の設定画の雰囲気やうまく再現

しているものの変形機構は省かれた初代1/60が並び立つ状態で、ひとつのモデルでのプロポーションと変形ギミックの両立は叶わない夢だった。初代MG以降は変形機構が進化していったが、アニメ版とは別のアレンジな外形へと舵が切られていったので、長いあいだ「アニメ版を再現して、変形でき、しかも両形態のバランスがとれている」Zガンダムは存在しなかった。



初代1/60



初代1/100

森 振られて混乱したんでしょ。Zガンダムはそのままいけるんだけれど、Zガンダムで「アレ？」ってなった。

NAOKI 「これ、自分のなかでどついうふうな位置づけたいのじゃないか」というのがわからなくなりましたよね。中学生なりにカッコいいとは思ってんですけど、自分のなかで消化してそれを模型として形にすることができなかった。

森 ガンダム Mk-IIとかハイザックまで

NAOKI 「これ、自分のなかでどついうふうな位置づけたいのじゃないか」というのがわからなくなりましたよね。中学生なりにカッコいいとは思ってんですけど、自分のなかで消化してそれを模型として形にすることができなかった。

森 上の世代からそういう話は聞きますね。NAOKI 「機動戦士ガンダム」からアニメは見ましたが、自分がガンダムの模型に目覚めたのって、MSVなんです。

森 いわゆる「リアル」な感じですね。

NAOKI そう。そこからの流れで急に

森 変形するZガンダムが来たので……直逆に振られて混乱したんでしょ。

NAOKI たしか中学校入ったくらいで、普通に見てました。でも当時は、見ながら混乱してました。

森 僕らは当時小学生だったので、子供心に「話が難しいなあ」と思ってた。あまり見てなかったりしたんですけど……(苦笑)。

NAOKI 当時Zガンダムのガンブラも

森 今となつては押しも押されぬ人気MSですけど、我々みたいなアラフィフ世代で放送当時を知るベテランモデラーにとつては、Zガンダムって複雑なところがありますよね。ちなみに、NAOKIさんは『機動戦士Zガンダム』の地上波放送アニメはリアルタイムで見ました。

NAOKI もっろん見ました。

森 僕は当時小学生だったので、子供心に「話が難しいなあ」と思ってた。あまり見てなかったりしたんですけど……(苦笑)。

NAOKI たしか中学校入ったくらいで、普通に見てました。でも当時は、見ながら混乱してました。

森 今となつては押しも押されぬ人気MSですけど、我々みたいなアラフィフ世代で放送当時を知るベテランモデラーにとつては、Zガンダムって複雑なところがありますよね。ちなみに、NAOKIさんは『機動戦士Zガンダム』の地上波放送アニメはリアルタイムで見ました。

NAOKI もっろん見ました。

森 僕は当時小学生だったので、子供心に「話が難しいなあ」と思ってた。あまり見てなかったりしたんですけど……(苦笑)。

NAOKI たしか中学校入ったくらいで、普通に見てました。でも当時は、見ながら混乱してました。

森 今となつては押しも押されぬ人気MSですけど、我々みたいなアラフィフ世代で放送当時を知るベテランモデラーにとつては、Zガンダムって複雑なところがありますよね。ちなみに、NAOKIさんは『機動戦士Zガンダム』の地上波放送アニメはリアルタイムで見ました。

NAOKI もっろん見ました。

森 僕は当時小学生だったので、子供心に「話が難しいなあ」と思ってた。あまり見てなかったりしたんですけど……(苦笑)。

NAOKI たしか中学校入ったくらいで、普通に見てました。でも当時は、見ながら混乱してました。

森 今となつては押しも押されぬ人気MSですけど、我々みたいなアラフィフ世代で放送当時を知るベテランモデラーにとつては、Zガンダムって複雑なところがありますよね。ちなみに、NAOKIさんは『機動戦士Zガンダム』の地上波放送アニメはリアルタイムで見ました。

NAOKI もっろん見ました。

森 僕は当時小学生だったので、子供心に「話が難しいなあ」と思ってた。あまり見てなかったりしたんですけど……(苦笑)。

NAOKI たしか中学校入ったくらいで、普通に見てました。でも当時は、見ながら混乱してました。

森 今となつては押しも押されぬ人気MSですけど、我々みたいなアラフィフ世代で放送当時を知るベテランモデラーにとつては、Zガンダムって複雑なところがありますよね。ちなみに、NAOKIさんは『機動戦士Zガンダム』の地上波放送アニメはリアルタイムで見ました。

NAOKI もっろん見ました。

森 振られて混乱したんでしょ。Zガンダムはそのままいけるんだけれど、Zガンダムで「アレ？」ってなった。

NAOKI 「これ、自分のなかでどついうふうな位置づけたいのじゃないか」というのがわからなくなりましたよね。中学生なりにカッコいいとは思ってんですけど、自分のなかで消化してそれを模型として形にすることができなかった。

森 ガンダム Mk-IIとかハイザックまで

NAOKI 「これ、自分のなかでどついうふうな位置づけたいのじゃないか」というのがわからなくなりましたよね。中学生なりにカッコいいとは思ってんですけど、自分のなかで消化してそれを模型として形にすることができなかった。

森 上の世代からそういう話は聞きますね。NAOKI 「機動戦士ガンダム」からアニメは見ましたが、自分がガンダムの模型に目覚めたのって、MSVなんです。

森 いわゆる「リアル」な感じですね。

NAOKI そう。そこからの流れで急に

森 変形するZガンダムが来たので……直逆に振られて混乱したんでしょ。

NAOKI たしか中学校入ったくらいで、普通に見てました。でも当時は、見ながら混乱してました。

森 僕らは当時小学生だったので、子供心に「話が難しいなあ」と思ってた。あまり見てなかったりしたんですけど……(苦笑)。

NAOKI 当時Zガンダムのガンブラも

森 今となつては押しも押されぬ人気MSですけど、我々みたいなアラフィフ世代で放送当時を知るベテランモデラーにとつては、Zガンダムって複雑なところがありますよね。ちなみに、NAOKIさんは『機動戦士Zガンダム』の地上波放送アニメはリアルタイムで見ました。

NAOKI もっろん見ました。

森 僕は当時小学生だったので、子供心に「話が難しいなあ」と思ってた。あまり見てなかったりしたんですけど……(苦笑)。

NAOKI たしか中学校入ったくらいで、普通に見てました。でも当時は、見ながら混乱してました。

森 今となつては押しも押されぬ人気MSですけど、我々みたいなアラフィフ世代で放送当時を知るベテランモデラーにとつては、Zガンダムって複雑なところがありますよね。ちなみに、NAOKIさんは『機動戦士Zガンダム』の地上波放送アニメはリアルタイムで見ました。

NAOKI もっろん見ました。

森 僕は当時小学生だったので、子供心に「話が難しいなあ」と思ってた。あまり見てなかったりしたんですけど……(苦笑)。

NAOKI たしか中学校入ったくらいで、普通に見てました。でも当時は、見ながら混乱してました。

森 今となつては押しも押されぬ人気MSですけど、我々みたいなアラフィフ世代で放送当時を知るベテランモデラーにとつては、Zガンダムって複雑なところがありますよね。ちなみに、NAOKIさんは『機動戦士Zガンダム』の地上波放送アニメはリアルタイムで見ました。

NAOKI もっろん見ました。

森 僕は当時小学生だったので、子供心に「話が難しいなあ」と思ってた。あまり見てなかったりしたんですけど……(苦笑)。

NAOKI たしか中学校入ったくらいで、普通に見てました。でも当時は、見ながら混乱してました。

森 今となつては押しも押されぬ人気MSですけど、我々みたいなアラフィフ世代で放送当時を知るベテランモデラーにとつては、Zガンダムって複雑なところがありますよね。ちなみに、NAOKIさんは『機動戦士Zガンダム』の地上波放送アニメはリアルタイムで見ました。

NAOKI もっろん見ました。

森 僕は当時小学生だったので、子供心に「話が難しいなあ」と思ってた。あまり見てなかったりしたんですけど……(苦笑)。

NAOKI たしか中学校入ったくらいで、普通に見てました。でも当時は、見ながら混乱してました。

森 今となつては押しも押されぬ人気MSですけど、我々みたいなアラフィフ世代で放送当時を知るベテランモデラーにとつては、Zガンダムって複雑なところがありますよね。ちなみに、NAOKIさんは『機動戦士Zガンダム』の地上波放送アニメはリアルタイムで見ました。

NAOKI もっろん見ました。



アニメ版という原点を空白地帯にしたまま パラレルに花開いた、それぞれの「Zガンダム」

『機動戦士Zガンダム』が放送された'80年代なかごろは、折しも才能ある新鋭メカデザイナーが雨後の筍のように現れ、MSVで錬成された模型誌カルチャーが盛り上がったころ。公式のアニメに参加するメカデザイナーが模型誌に同人的イラストを描き、それらが次々と作例として立体化されていった時代だ。その時代感にもっともマッチしたのがZガンダムで、Zプラス、藤田版、永野版といった、非公式なZガンダムがパラレルに生み出されモデラーに受けられていく過程で、その反作用としてモデラー

の間でアニメ設定版オリジナルのZガンダムが忘れられていったように思われる。'90年代に入るとガレージキットブームが到来するが、アニメ設定版Zガンダムが題材にされることはほとんどなく、シーンには「作るならZプラスを」という空気感が色濃くあった。その後も、初代HGのカトキハジメ氏のイラスト、初代MGでの再アレンジ、「マスターアーカイブ」(SBクリエイティブ刊)での龍川虚至氏によるアレンジなどが積み重ねられていくが、アニメ設定版Zガンダムは空白地帯のままあり続けてきた。



初代HG

『90年に発売された初代HG Zガンダムでは、1/144での変形再掲の都合からウェブ・シユータ―仕様へと形状を変更。組み立て説明書にカトキ氏のイラストも掲載されて、「アニメ版とは別な新しいZガンダムの形をモデラーに強く印象づけた」



「モデラー/模型誌の考える、リアルなZガンダム」として雑誌記事から生まれ、やがて『ガンダム・センチネル』で体系化されたZプラス。いまでもZ系を作るならこれ、というモデラーは多い(左写真はKen W氏によるMGをベースにした作例)

森 その「狭間」って表現、すごくよくわかります。でも、Zガンダムに対する感覚って、世代によってかなり変わりますね。NAOKI そうかも。今、Zガンダムって人気があると思うんですけど、それって我々とは違う入り口から入った人たちなんじゃないか、とぼんやり思っています。森 我々より上の世代で「アニメ版のZガンダム大好きな」っていうモデラーって、ほとんど見かけないですね。NAOKI ですけど、「Zプラス大好き」というモデラーはたくさんいますよ。森 当時の流れのなかで『Zガンダム』の地上波放送を見てモヤモヤした感覚と、たとえばリメイクされた劇場版だったりゲームのシーンから入るのだから、かなり印象が違わんじやないかな。もうちょっとピンポイントに言うと、アニメが放送されたときに小学校高学年以上だったか、低学年より下の世代で大きな差がある気が。

森 NAOKI それはありそうですね。森 これは個人的な見解ですけど、そんな当時の空気感がその後の流れを作ったように思っています。Zガンダムって、アニメ版そのものを作り込んでいくのではなく、藤田版や近藤版、Zプラスのように、「ほかのZガンダムの形を次々と生み出す」方向にパラレルに進んでいきましたよね。NAOKI かなり混沌としたよね。自分の世代は混乱していたけれど、上の世代はそこで自分なりの解釈を打ち出した、というところなんじゃないかな。森 そうやって、わいわいとお祭り騒ぎのようにやっていくなかから、カトキハジメさんはもちろんのこと、永野護さん、藤田一己さん、小林誠さん、近藤和久さん、明貴美加さんといった、その後のメカデザイナー界を支える才能が育っていったわけですから、おもしろいですよね。反面、それぞれの方向に進んでいくなかで、アニメのオリジナルなZガンダムって空白地帯のよう

にぼんやり空いたままになったというのもあるんじゃないかな。森 NAOKI あれだけ有名な作品の主役メカなのに、そういうオリジナルの原点に忠実なものってないよね、って思う。森 『Project Z』とか『Missison Z』は、表紙からしてZプラスと小林版Zガンダムでしたからね。アニメのZガンダムは、ないが普通ではないです。NAOKI 今だから考えられないですよ(笑)。当時は、それらを見て「アニメの奥にアニメとは違う世界が広がっているんだ!」みたいな気づきがあった、それがおもしろくて夢中になったんですけど。森 毎月模型誌が発売されることに「オレはこうしたいぜ!」っていうのが積み重ねられていった、そんなところでした。NAOKI 模型シーンが『ガンダム』を題材におもしろい遊びを見つけた、そういう感じ。同人のノリですよ。森 そのおもしろい遊びにみんな夢中になっていくうちに、原点であるアニメ版のZガンダムがそのまま放置されてきた、というのがあるでしょうね。そのあとガレージキットブームが来ますけど、アニメ版のZガンダムはほとんど題材にならなかったような。藤田版とかZプラスはたくさんキットになりましたけど。NAOKI Zガンダムっぽいものはたくさんありましたが、どれもアニメのZガンダムそのものではなかったですね。森 不思議な扱いのMSVだと思います。NAOKI やっぱ、アニメ版そのものはどうしていいかわからない、というモデラーが多かったんじゃないかな。逆にいうと、振り幅の可能性がすごい大きいモチーフだったとも言えるかもしれないけど。森 『ガンダム・センチネル』のZガンダムの画柄はさておきとして、Zプラスを見てしまつとそっちを作りたくなっちゃう、っていうのはあると思うんですけど。NAOKI なりますね。よく話に出ますが、初代HGの組み立て説明書に掲載されていた、カトキさんのイラストのインパクトもすごく大きかったです。

「ほかのZガンダムの形を次々と生み出す」方向に パラレルに進んでいきましたよね (森)

Zガンダムって、時間が流れるうちに受け手と 送り手に乖離ができたと思うんです (NAOKI)

NAOKI ●なつき/72年生。雑誌作例モデラー、原型師、グラフィックデザイナーとしてマルチに活躍中。現在自らプロデュースする『ティタノマキア』を展開中
森慎二 ●もりしんじ/74年生。マルチジャンルモデラー、ガンブラウォッチャー。本誌特集企画に関わりつつキットや設定の解説を多数執筆

森 アニメ版やキットとして入っているものとは全然別もので、あのイラストのほうを作りたくなっちゃうっていう。NAOKI あれはするんです。最大の褒め言葉として、する(笑)。森 です。今でも作りたくなる。NAOKI 初代HGのイラストは、ずっとひとつの基準ではありましたね。森 とくにZガンダムはいろんなアレンジがあって、原点は長い間空白地帯のままの状態が続いてきた。アニメ版のZガンダムにちゃんと向き合おう、という発想自体がないまま何十年も来ちゃったという。NAOKI そうですよ。ガンブラでは初代シリーズを除くと、アニメ版に向き合ったのはMG Ver. Kaが初めてでしょう。森 もちろん、キットごとに設定の意匠を拾ってきていたけれど、アニメ設定版をはっきりと目指すことがコンセプトになったことはなかったですよ。NAOKI 『ガンダム』以外の作品では、

設定画に忠実でないとか監修で直される、みたいなのが普通。でもガンブラはそこ違って、毎回どうアレンジするかというところが前提ですよ。だから、原点であるアニメ版を指すというのが、初代HG以降のZガンダムでは初めての試みになった。RX-78-2の場合は定期的に原点に安彦版の再現を突き詰める、みたいな人が出てきました。Zガンダムだとそれほとんどなかった。Zガンダムってひとつの「正解」を追い求める感じのMSVではなかったと思うんですけど、今回それが変わりましたね。それまでのZガンダムのガンブラで積み上げられてきた、ガンブラとしてのアレンジでカッコよく見せるセオリーがここで見事にリセットされたんじゃないでしょうか。森 Zガンダムのガンブラはこれまでもたくさんあったけれど、このキットのようなアプローチはなかったですね。NAOKI 近年は、MG、PG、HGUC、RGを経て、ガンブラという立体的なZガンダムアレンジの方向性というのか、方法論が確立されてきたのかな、と感づいてたんですけど、そこにいきなりこのMG Ver. Kaが来たので、「そう来たか!」という驚きがありました。森 『MG Ver. Ka』というシリーズ名なのに「アニメ版を指向する」というところに驚かれた方も結構いると思うんですけど、自分もそうでした。NAOKI 自分の知る限り、カトキさんってオリジナル(原点)をすごくリスベクトする方だと思っんです。だから、公式なキットへの関わり方としては、むしろ当然の成り行きだったのかもしれない。森 『Ver. Ka』と入っているのがカトキデザインのMSのシリーズと思われがちですけど、ラインナップを見るとそんなことは全然なくて。思うに、MG Ver. Kaって「メカデザイナーとしてのカトキさんが企画設計に参加することで、製品としてのスペシャリティを生み出す」というコンセプトのシリーズですよ。そういう意味では、このMGゼータガンダム Ver. Kaって、極めてMG Ver. Kaらしいという



マスターアーカイブ モビルスーツ MSZ-006 ゼガンダム
MASTER ARCHIVE MOBILE SUIT
MSZ-006 Z GUNDAM

モビルスーツ(ゼガンダム)を描き下ろしビジュアルと膨大なテキストを収録したMS研究書

2012

7の鼓動を聞け!

機動戦艦エウゴの旗機を徹底的に解説!!



HGBF
ライトニングZガンダム



RG

▶「ガンダム・センチネル」で掲載されたカトキ氏によるイラストのイメージをベースとして再アレンジされた初代MG。製品化にあたって画柄は描き直されたが、前後方向の長さが意図された頭部、前方に張り出した胸部、曲面的な脚部など、「ガンダム・センチネル」版で描かれていた特徴が盛り込まれ、アニメ設定版とはまったく異なる姿となった。



初代MG

「MG Ver.Ka」というシリーズの意味するところ

▶MGのプレミアムな派生シリーズである「MG Ver.Ka」は「カトキハジメ氏デザインのMSを並べるシリーズ」ではない。それは「ガンダム・センチネル」系のMSやVガンダムといったカトキ氏デザインのMSだけでなく、サザビーやHi-Vガンダムなどもラインナップされていることからわかる。製品によりニュアンスや濃淡が異なることもあるが、共通しているのは「元デザインを、メカデザイナーであるカトキ氏氏がMG用に改めて読み解き、設計陣との橋渡しをして立体化していく」というフレームワーク。何をやるかではなくどう作るか、MG Ver.Kaのスペシャリティはそこから生まれてくるのではないだろうか



か、コンセプト、フレームワークが活かされた内容になってるって感じました。NAOKI 実際には、単純にアニメ版設定画の忠実再現だけを目標している、ということでもないんですよ。

森 たしかに絵のフォルムをそのまま再現しよう、というふうにはなっていないですね。NAOKI ちゃんと今なりにカッコよくアレンジを入れてまとめられてますね。

森 頭身がちゃんと今なりのカッコよいバランスなってますし、ディテールも適度、本当に的確に「これ以上足すと変わりすぎ

もあるんですけど。

森 横型誌的には同人的なノリを良しとする文化がありますけど、公式な製品として、あえてそこはやらない的な。そういうたかな、もやっとした空気感、みたいなものをカトキさんがうまくまとめて公式に形に落とし込んでいく、それがMG Ver.Kaの大きな魅力のひとつですね。

NAOKI このMGゼータガンダムVer.Kaを見ても、とてもスタイリッシュな感じがしますよね。

森 いわゆるカトキ版というか、「ガンダム・センチネル」版や初代HGのイラスト版をキットにすれば喜んでモデラーは多いとは思ってんですけど、ここまでの完成度のプロダクトにはならなかったんじゃないか、という気がしちゃったんですね。できあがったものを見ていると。だから、この方法論でほかのMSを立体化したら………というのがありますごく気になってます。たとえばRX-78-2ガンダムとか。

NAOKI もしかすると「HEROIC GIN」版がそうなのかもしれないですけど……あれは別作品として意匠を変えてま

るし、ここは足たさないと立体的に見映えがしない」という判断がされたうえで、適度で足されています。帰帰しつつ、同時に先に行っているところもありますね。

森 「Project Z」や「ガンダム・センチネル」のZプラス、藤田版Zガンダムって、いわば、「同人」的なものでしたよね。NAOKI 当時はそこがおもしろかったし盛り上がりました。でも、何十年経ってもそれだけがもはやされ続けてしまうのって……なかなか複雑なところがあると思うんですよ。

森 なかなか決定的な立体物がありませんでしたね。余計にこだわりができてしまったというのがあります。

NAOKI Zガンダム系のデザインって、時間が流れるうちに受け手側と送り出す側に乖離ができてきてしまったように思うんですよ。デザインもする私なんかからすると、そこが見ていておもしろいところでもあるんですけど。

森 横型誌的には同人的なノリを良しとする文化がありますけど、公式な製品として、あえてそこはやらない的な。そういうたかな、もやっとした空気感、みたいなものをカトキさんがうまくまとめて公式に形に落とし込んでいく、それがMG Ver.Kaの大きな魅力のひとつですね。

NAOKI このMGゼータガンダムVer.Kaを見ても、とてもスタイリッシュな感じがしますよね。

森 いわゆるカトキ版というか、「ガンダム・センチネル」版や初代HGのイラスト版をキットにすれば喜んでモデラーは多いとは思ってんですけど、ここまでの完成度のプロダクトにはならなかったんじゃないか、という気がしちゃったんですね。できあがったものを見ていると。だから、この方法論でほかのMSを立体化したら………というのがありますごく気になってます。たとえばRX-78-2ガンダムとか。

NAOKI もしかすると「HEROIC GIN」版がそうなのかもしれないですけど……あれは別作品として意匠を変えてま

したね。それで言うと、自分はガンダムMk-IIをこのMGゼータガンダムVer.Kaと同じ手法で再現したものかとも見てみたくなりました。

森 それは見てみたい。MGゼータガンダムVer.Kaと比べてみたいですね。

NAOKI 40年近く経った今回のMG Ver.KaでガンダムのZガンダムがリセットされて、ようやく空白であり続けてきた「原点」が埋められた。だからこそ、若い世代のガンダファンがこのMGゼータガンダムVer.Kaをどう捉えているのかって、すごく興味があるんですよ。

森 たしかに。

NAOKI ここまでのガンダムのZガンダムに慣れて、それがカッコいいと思ってきた層のモデラーが、これを見てどう思ったのかな? っ。

森 それまでの立体的なゼータリーとはまったく違いますからね。

NAOKI 頭は前後に伸ばそうとか、胸は起して前に張り出させると見映えがするとか、脚を伸ばしてフロントアーマーを長くするとバランス良く見えるとか、流れのなかでそういうセオリーが確立されてきたんじゃないですか。

森 これは全部逆ですよ。

NAOKI 以前は自分も、初代HGイラスト的なZガンダムや、ガンダムのZガンダムの効いたZガンダムをいいと思ってきたわけですけど、今回のMGゼータガンダムVer.Kaを見て改めて「カッコいい」と思ったんです。それは自分が年をとったからなのか、それとも製品がデザイナーの魅力を引き出したからなのか……正直よくわからないんですよ。

森 どうなんですか。でも、たしかにそういう気持ちは僕にもあるかも。

NAOKI 若い層のモデラーって、物心ついたころからアレンジが効いたZガンダムのガンダを見続けて育ってきたと思うんですけど、このMGゼータガンダムVer.Kaを見てどう思うのか、というのをいつかどこかで聞いてみたい、かな。

たか、コンセプト、フレームワークが活かされた内容になってるって感じました。NAOKI 実際には、単純にアニメ版設定画の忠実再現だけを目標している、ということでもないんですよ。

森 たしかに絵のフォルムをそのまま再現しよう、というふうにはなっていないですね。NAOKI ちゃんと今なりにカッコよくアレンジを入れてまとめられてますね。

森 頭身がちゃんと今なりのカッコよいバランスなってますし、ディテールも適度、本当に的確に「これ以上足すと変わりすぎ

したね。それで言うと、自分はガンダムMk-IIをこのMGゼータガンダムVer.Kaと同じ手法で再現したものかとも見てみたくなりました。

森 それは見てみたい。MGゼータガンダムVer.Kaと比べてみたいですね。

NAOKI 40年近く経った今回のMG Ver.KaでガンダムのZガンダムがリセットされて、ようやく空白であり続けてきた「原点」が埋められた。だからこそ、若い世代のガンダファンがこのMGゼータガンダムVer.Kaをどう捉えているのかって、すごく興味があるんですよ。

森 たしかに。

NAOKI ここまでのガンダムのZガンダムに慣れて、それがカッコいいと思ってきた層のモデラーが、これを見てどう思ったのかな? っ。

森 それまでの立体的なゼータリーとはまったく違いますからね。

NAOKI 頭は前後に伸ばそうとか、胸は起して前に張り出させると見映えがするとか、脚を伸ばしてフロントアーマーを長くするとバランス良く見えるとか、流れのなかでそういうセオリーが確立されてきたんじゃないですか。

森 これは全部逆ですよ。

NAOKI 以前は自分も、初代HGイラスト的なZガンダムや、ガンダムのZガンダムの効いたZガンダムをいいと思ってきたわけですけど、今回のMGゼータガンダムVer.Kaを見て改めて「カッコいい」と思ったんです。それは自分が年をとったからなのか、それとも製品がデザイナーの魅力を引き出したからなのか……正直よくわからないんですよ。

森 どうなんですか。でも、たしかにそういう気持ちは僕にもあるかも。

NAOKI 若い層のモデラーって、物心ついたころからアレンジが効いたZガンダムのガンダを見続けて育ってきたと思うんですけど、このMGゼータガンダムVer.Kaを見てどう思うのか、というのをいつかどこかで聞いてみたい、かな。

たか、コンセプト、フレームワークが活かされた内容になってるって感じました。NAOKI 実際には、単純にアニメ版設定画の忠実再現だけを目標している、ということでもないんですよ。

森 たしかに絵のフォルムをそのまま再現しよう、というふうにはなっていないですね。NAOKI ちゃんと今なりにカッコよくアレンジを入れてまとめられてますね。

森 頭身がちゃんと今なりのカッコよいバランスなってますし、ディテールも適度、本当に的確に「これ以上足すと変わりすぎ

NDAM

#001

Model Graphix
2023年5月号
掲載



MG MSZ-006 ZETA GUNDAM

Ver.Ka

フォルムとギミックはもちろん、成型色や色分けにまで徹底的にこだわられたモデルとなったMGゼータガンダム Ver.Ka。ここではテストショットを製作した完成品を紹介しましょう。

MG ゼータガンダム Ver.Ka
BANDAI SPIRITS 1/100
インジェクションプラスチックキット
税込7150円
出典／『機動戦士Zガンダム』
製作・文／めっきー

マスターグレード 1/100
ゼータガンダム Ver.Ka

#001

キットそのままに
塗装仕上げで
作ってみよう
キット
ストレート組み



* 画像の完成品は塗装してあります。
製品版とは一部形状やマーキングが異なる箇所があります

MOBILE SUIT
mode
MSZ-006 ZETA GUNDAM



#001

アニメ版のニュアンスを見事に再現

- 上下に長い頭部や前面が垂れた胸など、アニメ版設定画のニュアンスを再現。外装はすっきりとしたディテール表現となっているが、隙間からのそくメカニカルな表現が可変MSらしさを演出している
- 色分けは完全にパーツ分割で再現されているので、それぞれの色でパーツを塗って組み立てていけば、マスキング不要で塗り分けることができる







9784499233958

ISBN978-4-499-23395-8 C0076 ¥3900E

定価(本体3,900円+税)



1920076039003

Model Graphix GUNDAM ARCHIVES
"All that MG
Z GUNDAM Ver.Ka"

© 創通・サンライズ

